

東京・ふるさとショップ探訪

〔第6回〕

武蔵野市と友好都市の特産品が揃う「麦わら帽子」

吉祥寺の商店街に定着した「しかけづくり」の場

✦ 文 山田 稔 Text by Minoru Yamada ✦



武蔵野市友好都市 アンテナショップ 麦わら帽子
東京都武蔵野市吉祥寺本町2-33-1
Tel.0422-29-0331
《営業時間》10:30~18:30《定休日》水曜日



「住んでみたい街」上位の常連・吉祥寺にある「麦わら帽子」は、武蔵野市と友好都市が相互の交流と発展のための「しかけづくりの場」として2001年から営業しているアンテナショップ。約20坪（66㎡）のこぢんまりとした店内では、岩手県遠野市、山形県酒田市、千葉県南房総市、新潟県長岡市、長野県安曇野市・川上村、富山県南砺市、広島県大崎上島町、鳥取県岩美町の9市町村の特産品と地元の魅力の商品として認定された「むさしのプレミアム」が販売されている。取材で訪れた際には、修学旅行で来ていた大崎上島町の中学生が島の特産フルーツ、ジャムなどの販売体験を行っていた。

各友好都市から旬の安全・安心な（無農薬、有機肥料、無添加物）商品を中心に、毎日仕入れられている。売れ筋商品は安曇野市のドライフルーツ（りんご、いちじく、あんず、しょうがなど）、遠野市の乾燥大根、酒田市の無添加ハインバーグ（レトルト）など。切り干し大根は一般的だが、輪切りの乾燥大根は珍しい。この大根は民話の里・遠野の高原野菜で、水で半日かけて戻し、おでんや煮込みにすると凝縮された味が楽しめるという。

1日当たりの来店客数は約300人。8割が地元で、残り2割が観光客らだという。今年9月にリニューアルオープンしたばかり。

「店内に1本しかなかった通路を2本にしたことで、ベビーカーでいらっしやるお母さまたちに、利用しやすくなった」と好評です。それまでは外観が一般の八百屋さんと間違えられたこともあり、アンテナショップだと一目でわかるような店構えにしました」（営業統括マネージャーの佐藤健太さん）

マンスリーイベントとして第1土曜・日曜日は岩美町フェア、第2・第4木曜日は南房総市フェア、第2金曜・日曜日は遠野市フェア、第3土曜日

は安曇野市フェア、第4土曜・日曜日は酒田市フェアを実施。それぞれの産地から生産者らがやって来てお客さんと触れ合いながら、特産品のPRをするとともに要望を聞くなど、「交流・しかけの場」となっている。

一つの店舗で友好都市と地元の特産品を吟味でき、各地の最新情報も入手できる。今では吉祥寺の魅力スポットとしてすっかり定着している。



profile

1960年生まれ長野県出身。日刊ゲンダイ経済編集部長、広告局次長を経て独立。編集工房レーヴ代表。著書に「酒と温泉を楽しむ[B級]山歩き」（光文社知恵の森文庫）、「分煙社会のススム。」（光文社）など。「美楽」創刊時に山歩きエッセイを連載。